

厚生文教委員会報告書

平成31年2月18日

備前市議会議長 立川 茂 殿

委員長 中西 裕 康

平成31年2月18日に委員会を開催し、次のとおり議決したので議事録を添えて報告する。

記

案 件	審査結果	備 考
1 子育て支援についての調査研究 ① 子ども医療費助成について	継続審査	—
2 教育行政についての調査研究 ① 香登認定こども園について（委員派遣）	継続審査	—

<報告事項>

- 片上～和気間の路線バス運行に係る必要経費について（市民協働課）
- 備前市共同作業所設置条例の廃止について（市民協働課）
- まちづくり会議の活動支援について（市民協働課）
- 生活交通利用補助金の交付要件と実績の推移について（市民協働課）
- クリーンセンター備前基幹的設備改良工事の竣工式について（環境課）
- 風しんに関する追加的対策について（保健課）
- のら猫不妊去勢手術事業助成金について（保健課）
- 市営バスでお出かけ体験事業について（社会福祉課）
- 特別養護老人ホーム大ヶ池荘のエレベータ改修について（社会福祉課）
- 備前市病児・病後児保育施設設置条例の廃止について（子育て支援課）
- 備前市病院事業改革プランの平成29年度評価について（市立病院）
- 平成31年度入園申込状況について（幼児教育課）
- えびす駅伝競走大会について（社会教育課）
- 中学生から備前市へのメッセージ（社会教育課）

《 委員会記録目次 》

招集日時・出席委員等	1
開会	2
報告事項	2
委員派遣について	17
閉会中の継続調査事件	17
1. 子育て支援について	17
2. 教育行政について	19
閉会	19

厚生文教委員会記録

招集日時	平成31年2月18日（月）		午前9時30分	
開議・閉議	午前9時30分	開会 ～	午前11時12分	閉会
場所・形態	委員会室A・B	閉会中の開催		
出席委員	委員長	中西裕康	副委員長	青山孝樹
	委員	橋本逸夫		守井秀龍
		西上徳一		森本洋子
		星野和也		
欠席委員		なし		
遅参委員		なし		
早退委員		なし		
列席者等	議長	立川 茂		
	委員外議員	なし		
	紹介議員	なし		
	参考人	なし		
説明員	市民生活部長	今脇誠司	市民協働課長	杉田和也
	環境課長	久保山仁也		
	保健福祉部長 兼 福祉事務所長	山本光男	保健課長	森 優
	社会福祉課長	丸尾勇司	子育て支援課長	眞野なぎさ
	教育部長	川口貴大	教育振興課長	大岩伸喜
	幼児教育課長	波多野靖成	文化振興課長	田原義大
	社会教育課長	横山裕昭		
	病院総括事務長 兼 さつき苑事務長	金井和字	日生病院事務長	石原史章
	吉永病院事務長	万波文雄		
傍聴者	議員	なし		
	報道関係	なし		
	一般傍聴	なし		
審査記録	次のとおり			

午前9時30分 開会

○中西委員長 皆さん、おはようございます。

ただいまの御出席は7名でございます。定足数に達しておりますので、これより厚生文教委員会を開会いたします。

それでは、本日の進め方についてですが、まず執行部より報告事項をお受けし、報告事項についての質疑を行った後に、レジュメにありますように、子育て支援についての調査研究を行い、その後教育行政についての調査研究ということで、委員会閉会後に香登認定こども園に委員会視察に行きたいと思っております。

なお、今回の報告事項には平成31年度からの新規事業や予算についての報告も含まれております。事前審査とならない範囲での質疑ということで、皆さんの御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

***** 報告事項 *****

それでは、議事に入ります。

執行部から報告事項をお受けしますので、よろしく願いいたします。

○杉田市民協働課長 市民協働課からは、1月25日に開催されました厚生文教委員会で御質問いただいた片上～和気間の路線バス運行の必要経費について御報告させていただきます。

まず、直接経費といたしまして、燃料費が約26万円、備品購入費が備前市内分のバス停設置費用として6カ所、道路の両端に設置するので12基分で59万7,000円を見込んでおります。

また、その他人件費や車両修繕費につきましては、現在の運行シフトの枠内で運行することになりますので、改めて予算計上は行っておりません。

また、片上和気線につきましては、運行予定の4便について本市と和気町でそれぞれ2便を運行することから、利用者様にとっては同一路線の利用でバス運行車が異なることが想定されます。そのため、この片上和気線に限り利用者の利便性を考慮し、定期券、回数券についての相互利用を同一金額で認めることとし、例として和気町が発売する定期券、回数券を使って備前市営バスを利用することを認めること、またその逆も認めていただくことを予定いたしております。

次に、2月定例会に提案を予定しております備前市共同作業所設置条例の廃止について御報告させていただきます。

備前市麻宇那共同作業所につきましては、平成31年3月31日まで指定管理者として麻宇那地区で管理をしていただいておりますが、近年共同作業所としての使用がなく、地区としても今後の利用見込みもないので防犯上の理由からも解体撤去を求める要望書のほうが提出されております。

また、この作業場が建築されてから39年が経過し、老朽化しており、他の用途での使用も見込めないことから当該作業所の用途を廃止し、建物を解体撤去後、土地を普通財産に所管がえし

売却することを検討いたしております。

次に、まちづくり会議の活動支援についてですが、地域の課題解決や活性化に向けて自主的に取り組む事業に活用していただける市の各種補助金として協働事業補助金やふるさとづくり事業補助金がございますが、まちづくり会議に対してはこれらの市補助金の交付要件や補助率を緩和、優遇することを検討しております。これにより、まちづくり会議が事業に取り組むことを容易にするとともにまちづくり会議が立ち上げられていない地区に対してはその動機づけの一つになることを期待しております。

最後に、生活交通利用補助金、いわゆるタクシーチケットの交付についてですが、お手元にこれまでの制度の推移について資料としてまとめておりますのでごらんください。

一番下の欄に来年度からの改正案として赤字で示しておりますとおり、妊産婦の方を対象に加えることを検討しております。実施に当たっては、母子手帳の交付を受けられた妊産婦を対象として、最長で申請日から出産予定日の3カ月後までの期間のチケットを交付することとしております。なお、交付枚数や有効期限等については現行の対象者と同じこととする予定といたしております。

○久保山環境課長 環境課からお知らせをいたします。

平成28年度から進めておりましたクリーンセンター備前の基幹的設備改良工事が3月に完了する運びとなっております。つきましては、議会閉会日の翌日、3月23日土曜日10時からクリーンセンター備前にて竣工式をとり行いたいと思っております。詳細は、後日議員の皆様へ御案内させていただきますので、出席方よろしくお願いたします。

○森保健課長 保健課から新規事業2事業について御報告させていただきます。

まず一つ目は、風疹に関する追加的対策で、風疹は妊娠している女性がかかると生まれてくる赤ちゃんに心臓の疾患や難聴、白内障、精神や身体の発達のおくれ等が生ずるおそれがあります。昨年来の風疹の流行を受け、平成31年度から3年間でこれまで定期接種の機会がなく抗体保有率が他の世代と比べて低い昭和37年4月2日から昭和54年4月1日生まれ、現在の年齢で39歳から56歳の男性を対象といたしまして抗体検査及び予防接種を国の負担において実施することとなりました。実施方法といたしましては、抗体検査、予防接種のクーポンを作成いたしまして対象者へ送付いたします。抗体検査を受けていただき、その結果により予防接種を受けていただくこととなります。1年目は39歳から46歳までの男性を対象としますが、47歳から56歳の男性で御希望があれば抗体検査、予防接種ともに受けられるものでございます。

続きまして、二つ目の事業につきましては、野良猫に対する事業で野良猫不妊去勢手術に対する助成事業です。

動物愛護の観点から繁殖を抑制し、良好な生活環境の保全に資するため不妊手術、または去勢手術を行う団体や個人に対しまして予算範囲内で助成するものです。

○丸尾社会福祉課長 それでは、社会福祉課より2点報告をさせていただきます。

1点目は市営バスでお出かけ事業についてでございます。

資料をごらんください。

この事業は、市営バスでのお出かけ体験を通じて高齢者の外出の機会の創出や、身近な移動手段の認識と活用の推進を図ることを目的にしております。

内容としましては、65歳以上の人を含む2名から6名のグループで市営バスを利用させていただいてアンケートにお答えをいただくもので、一人200円の回数券をお配りすることとしております。現在、参加申し込みを受け付けておりますので、周知方をよろしく願いいたします。

2点目は、昨年8月に視察をしていただきました特別養護老人ホーム大ヶ池荘についてでございますが、この施設は昭和58年5月の開設以来35年が経過し、施設の老朽化が進んでおります。特にエレベーターは日々の生活に欠かせない設備として毎年安全点検を行っておりますが、使用年数を考えますといつ故障してもおかしくない状況となっております。今回、大ヶ池荘のエレベーターの改修を平成31年度に行いたく当初予算に計上しておりますのでよろしくお願いをいたします。

○眞野子育て支援課長 子育て支援課から2月議会に提案させていただき予定の備前市病児・病後児保育施設設置条例を廃止する条例について御報告をさせていただきます。

備前市では、平成29年5月から伊部保育園内に病児・病後児保育施設を設置しておりましたが、平成31年4月1日に伊部保育園は伊部認定こども園に統合されることから、伊部保育園内に設置しておりました病児・病後児保育施設を廃止させていただき条例案でございます。

今後につきましては、新たに小児科のある市立吉永病院の一部施設改修を行い、病児・病後児保育事業を実施できるように今年度事業を進めてきておりますが、改修工事等のおくれにより4月からの実施がたまたまのところ困難な状況となっております。その間は平成30年4月1日付で締結しております岡山県病児保育事業実施施設の相互利用に関する協定に基づいて、岡山市、瀬戸内市などの病児保育施設を御利用いただけることになっておりますので、利用者の方には御不便をおかけしますが他の施設を利用させていただくことになると考えます。なるべく早い時期に吉永病院で開設していただくように進めてまいりますので、よろしくお願いをいたします。

○金井病院総括事務長（備前病院） それでは、病院事業のほうから御報告を申し上げます。

レジュメに書いてないことを先に申し上げますと、既に広報等で周知を図っておるところですが、病院事業におきましてやっとな敷地内全面禁煙というのが足並みがそろったということで、本年4月より日生病院、吉永病院においても敷地内、当然施設内の全面禁煙ということになります。また、引き続き広報等で周知させていただきたいと思っております。

それから、先ほど病児・病後児保育のほうで御報告がありましたが、補足をさせていただきますと、あくまでも病児・病後児保育というのは病院の事業としてやるものではないということでの御理解をいただきたいと思っております。市の事業として進める中で、吉永病院には小児科のドクターがいらっしゃる、さらに院内保育所を持っておるということで施設を活用させていただきたい

という市の申し出によって、病院事業のほうで協力しておるといふような形での御理解をいただけたらと思います。

それでは、レジュメのほうの報告をさせていただきます。

備前市病院事業改革プランということで、平成28年から32年度の5年間のプランを持っております。進捗状況の点検評価のために病院事業経営評価委員会というものを設置しております。委員は6名で、地域医療団体の代表として県備前保健所長の徳山氏、和気医師会の理事で吉本医師、経営に関する学識経験者ということで公認会計士で前備前市代表監査員であります大田氏、その他の委員ということで市社会福祉協議会の下野事務局長、行政として市から高橋副市長並びに山本保健福祉部長をお願いいたしております。

時期的には、30年度が終わろうとする時期で29年度の評価ということで、遅きに失した感がございますが、平成29年度の評価についてまとまりましたので、病院のホームページのほうに掲載させていただきます。あわせて厚生文教委員会のほうにも御報告させていただきたいと思っております。

まず、お手元に資料をお配りいたしておりますが、改革プランでは課題解決のための具体的取り組み事項として大きく4点を掲げております。

まず1ページにありますア、経営状態の問題ということで、職員の意識改革として4項目、それから2ページで、経費節減、抑制対策として7項目。なお、項目に括弧書きで病院名がございますのはその病院単独の取り組み項目ということです。

それから3ページ、(3)ですが収入増加、確保対策として7項目でアといたしましては合計18項目です。

次に3ページの下からになります。イ、人材確保の問題ということで、医師確保対策として6項目、看護師等確保対策として2項目、薬剤師確保対策として3項目、民間活力の活用として1項目でイといたしましては合計12項目です。

次に5ページからになります。ウ、人口減少の問題とエ、患者受療状況の問題ということで合わせてありますが、医療体制の充実として2項目、地域医療連携の推進として4項目、最後6ページ、その他の項目として2項目で合計8項目です。

プラン全体では、病院単独の取り組み項目も含めまして38項目の点検項目となっております。表の中で表示していない部分につきましては、複数年度の取り組みということで、29年度の取り組みがなかったというように御理解いただけたらと思います。それぞれについて、自己評価としてAが前進、Bが順調、Cがおおむね順調、Dが停滞、Eが後退という5段階の評価で、前年度比によりましてプラス・マイナス5%をCというところとの中央におきまして5%以上10%未満向上したというのがB、10%以上向上したというのがAという評価になっております。逆に5%以上10%未満の低下がD、10%以上の低下がEというような数値による自己評価を行っております。それにおきまして、経営評価委員会を昨年2回開催させていただきました。

て、それぞれ委員の方に検討協議をいただき、現状への評価と今後の方向性ということで別紙になっておりますが、アドバイスという形のそれぞれの御提言をいただいたところです。

駆け足で概要を御説明申し上げましたが、これもホームページにアップいたしておりますので、今後の参考にしていただけたらと思います。

○波多野幼児教育課長 それでは、幼児教育課の報告事項でございます。

平成31年度入園申し込み状況につきまして報告いたします。

クリップどめしております6枚の資料のほうをごらんいただければと思います。

平成31年4月1日入園の申し込みにつきましては、昨年11月から12月上旬にかけて申し込み受け付けをいたしました。その後、職員数と照らし合わせまして各園、希望の園を割り振りした結果、2月7日現在、4月1日の入園が決定できない方が47名生じております。下の数字を見ていただければと思うんですけども、まずゼロ歳児は44名の希望に対して28名、1歳児が117名の希望に対して98名、2歳児が151名の希望に対して139名まで決定はしております。

次のページをごらんいただき、ことしの2月1日現在の備前市の就園人数のほうを掲載しております。ゼロ歳児につきましては36人、1歳児につきましては111人ですが、2歳児につきまして今現在の就園数が116人に対して151人の応募が来ております。ゼロ歳につきましては子供3人につき1人の保育士、1歳児、2歳児につきましては子供6人につき1人の保育士が必要になります。3歳児からはそれぞれ20人、4歳、5歳になりますと30名に1人の保育士ということで、3歳児以上につきましては全員入園可能ということで決定通知のほうを出させていただいております。その中でもことしは5歳児が多い年でありまして、今現在の就園数114人に対しまして157人の申請ということで、こちらのほうは何とか就園の決定はできている状況でございます。

最初の表に戻っていただき、伊部認定こども園のゼロ歳児の希望者数が21名ということで、これを全部可能にするには、ここに21名プラス7人の担任が必要になります。今現在、伊部こども園、旧殿土井保育園、伊部保育園を合わせてゼロ歳児は3人でございます。ゼロ歳児につきましてはこの問題と、それからその次に入園保留が出ておりますのは吉永認定こども園、香登認定こども園というふうが続いておりますが、香登認定こども園は保育士数の不足だけではなく、施設上の手狭さというのが関連してまいります。この件につきましては、午後調査に来ていただくということで詳しく説明をさせていただきたいと思っております。

3ページ目をお開きいただきたいと思います。

多くの入園希望者に対しまして決定者と、それから決定不可、いわゆる待機となる人の基準でございますが、備前市立保育園設置条例の施行規則第3条による基準点数表というのを設けておりまして、上の1番と2番については御両親ともに居宅外の労働と居宅内の労働、今現在労働時間が4時間から8時間以上の方につきましては、基準の点数が10点から4点ということで、今

現在子供を見る機会がない、本当に保育に欠ける方というのが居宅外で労働されている方、その次に居宅内で労働されている方というふうな点数の高さになっております。今現在、入園がかなえられない方につきましては、下から3番目の8番、求職中という欄がございます。今現在、家庭で子供を見てらっしゃる方が求職活動を行う、それから育休復帰等でこれから仕事につきたい、入園が決まったら本格的に復帰を目指す方につきましては、基準でいうと1点でございます。詳しく申し上げますと、一番上の居宅外労働でお父さんのほうが8時間労働しており、お母さんのほうも8時間労働している方というのは基準の点数が20点ございますが、どちらか、お父さんが労働している方プラスお母さんは求職中という方であれば10点と1点を足して11点しかないということになりまして、保育園の入園基準の点数で言うと低い点数になります。今、待機してらっしゃる方はほとんどがこの求職中の方でいらっしゃいます。

右ページ、点数が同点の場合の優先順位といたしましては、1番は市内に在住する世帯を優先しております。その次は、先ほどの基準の点数表が高い世帯を優先しております。

その次のページをめくっていただきたいと思います。

2月7日付で入園決定ができない方につきましては、このような保育利用調整結果通知書を送っております。理由は受け入れ人数に余裕がなかったためということでございまして、この通知とともに次のページをめくっていただければと思います。

2月7日現在では、御期待に沿うことができないというお断りの後、この後の手続の流れについてこのような用紙を入れまして説明をしております。中には一つのこども園だけ入園希望ということで第2希望、第3希望を書かれていない方がいらっしゃいます。その方が改めて希望園を変更して2次利用調整を希望するということを選択していただければ、最後のページでございますけれども、例えばもう伊部一本という方が三石、あるいは西鶴山、その他自分が通える範囲でどうしてもお子さんを預かっていただきたいので、希望園を変えますよというような変更届のほうを本日月曜日中に出していただきましたら、園の事情を鑑みて再び審査のほうをさせていただきますが、ゼロ歳、1歳、2歳につきましては非常に厳しい状況が続いております。

主な原因は、保育士の不足にございます。正職員は今年度6名退職いたしまして、そのうち昨年中に6名の補充は何とか完了いたしました。12月中旬にこのような申し込み状況が判明して以来、総務課のほうと協議し、追加募集で3名程度採用というような基準を設けていただきまして、一昨日最終試験を行ったところでございます。正職はそのように、30年度と同数は確保いたしました。臨時職員が12名、今年度末で退職されます。この12名のうち3名は正職の追加募集で3名合格となれば補充できるのですが、残り9名の確保が喫緊の課題となっております。その中には4時間のパートの方、6時間のパートの方等も含まれておりますが、臨時職員につきましては随時面接をしていく所存でございます。また、ハローワーク、市のホームページ等、また各園長先生、園職員の情報をもとに確保に全力を尽くしてまいりたいと思います。

○横山社会教育課長 報告の前に、先日のえびす駅伝の御出席をお礼を申し上げます。雪の影響

もございましたが、時間を調整して103チームの参加のもと開催できました。なお、スポーツ少年団の部は中止となっております。

それでは、中学生からのメッセージというタイトルの資料をごらんください。

今年度の夏から秋にかけてだっぴという、大人と中学生が生き方や仕事などについて語らうイベントを開催しております。本委員会の皆様にも御参加いただき、ありがとうございました。このイベントは、中学生らの若者に、地域の人や仕事などに目を向けてもらうこと、またこれからのまちづくりの主体者としての意識を育むことを目的に開催しております。このイベントに参加した中学生のまちづくりに対する意見を改めて調査、聞き取りをしまして、中学生の代表によりまとめられたのが、この提言でございます。10年後に望む町の姿として、9ページから13ページになりますけども、5項目にわたる提言が示されております。

お手元の冊子と同じ提言を2月14日に中学生の代表から市長、教育長への手渡しを終えております。事後報告になり恐縮ですが、お知らせいたしたいと思います。

冊子につきましては、ぜひごらんいただけたらと思います。

○中西委員長 以上、報告のほうで漏れはございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

質疑を行っていくわけですが、たくさんの項目がありますので3つに分けます。

最初は公共交通から備前市病児・病後児保育施設設置条例の廃止について、ここまでで質疑がある方の挙手をお願いしたいと思います。

○森本委員 風疹に関する追加的対策、この4番目にポイントで昭和37年4月2日から昭和47年4月1日生まれの男性についても希望があれば抗体検査を実施と書いてあるんですけど、抗体検査はとりあえず皆さんされるんですよ。上には、2番目にまず抗体検査を受けていただき書いてあるんですけど、もう少し詳しく聞かせていただきたいんですけど。

○森保健課長 この風疹に関する追加的対策というのが来年31年度から3年間で実施していくという中で、最初の31年度の1年目につきましては、昭和47年4月2日から昭和54年4月1日生まれの男性を対象にいたしまして、まずは若い年齢層の方に先に受けていただくということで、その方々を重点的に市のほうからクーポン券を送って抗体検査をしていただき、陽性であれば予防接種をしていただくというところです。その後の年代の方につきましても、御希望があれば1年目であっても抗体検査及び予防接種ができるというようなことになっております。

○西上委員 野良猫の助成の件、お願いいたします。

1匹につき5,000円ということなんですけれども、普通に去勢手術したらどれくらいかかるんでしょうか。

○森保健課長 動物病院、医療機関によって値段が違うんですけども、おおむね雄であれば約1万円、雌であれば約2万円かかるというふうに聞いております。

○西上委員 2年ほど前、日生地区でNPOさんの関係で無料でやられたということをお聞きし

ているんですけども、今回このようなことはお考えにはならなかったのでしょうか。

○森保健課長 平成29年にボランティア団体が日生のほうで野良猫の去勢の手術をされましたけれども、そのときに1匹5,000円で手術をされたということでありまして、予算的には1匹につき5,000円ということで考えております。

この助成事業につきましては、個人と団体を対象としておりますので、団体さんが実施した場合に申請があれば補助していこうとは思っております。

○西上委員 野良と飼い猫の見分け方、区別はどうされるのでしょうか。

○森保健課長 見分け方なんですけど、これにつきましてはいろいろやり方があるかと思いますが、実施するときには地区の方の御協力もいただきまして、飼い猫は家の中で外に出ないようにしてもらうであるとか、そういった広報をしつつ実施していきたいと思っております。実際、野良の手術をするときには周知期間をとっていただきまして、実際に手術する日の1日前、2日前なりに捕獲器を置いていただいて捕獲します。その猫について去勢手術をしていただくというようなことになろうかと思っております。

○守井委員 タクシーチケットの話が出てたんですけど、以前は有効期限が1カ月だったものが平成30年から2カ月に延びているわけですが、市民の反応はどうでしょうか。もう少し延ばしてほしいとか。以前は1年だったと思うんですけど、その点はいかがなんでしょう。例えば、3カ月にしてほしいといった要望が来ているとか。一般の方から1カ月では余りにも短いという話を聞いて2カ月になってるんじゃないかなと思うんですけど、いかがですか。

○杉田市民協働課長 29年度当時、1カ月じゃ短いという要望をいただいております、30年度から2カ月に延ばしたという経緯は御指摘のとおりです。現在のところ、2カ月に延ばしたということで皆さんには喜んでいただきまして、それ以上延ばしてくださいという要望のほうは、事務局のほうには届いておりません。

○中西委員長 ほかにございませんでしょうか。

よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次は備前市病院事業改革プラン平成29年度評価についてで御質問ありませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、平成31年度入園申し込みについてから中学校から備前市へのメッセージ、教育委員会所管のところでは質疑はありませんでしょうか。

○守井委員 入園希望者数が非常に多く、47人も入れないということで、今までは完全入園が備前市では専らな話だったんです。聞きましたら臨時職が12人やめられるというようなことなんですけど、3人補充ができるということで、9人ほど不足するということは、1歳児を担当するとすれば大分の数の方々に影響はしてくるだろうと思うんですけど、臨時職が急にたくさんやめられたというのはどういう理由なんですか。

○波多野幼児教育課長 退職の原因につきましては、臨時の方の中でもほとんどが家庭の事情でございます。若い方では結婚が決まって市外等に出ていかれる方、年配の方につきましては家族の介護のために保育士を続けることができないというような、ほとんどが家庭の事情ということで退職の申し入れを受けております。

○守井委員 9人も退職というのは、急激な変化じゃないかと思うんですよね。事前の把握というのは全くされてなかったんでしょうか。例えば、今からとしても来年のこの時期には10人ほどの方がやめられる予定があるんだったらそれなりの動き方をして採用しなくちゃならないんじゃないかという感じがするんですけどね。その辺はいかがだったんですか。

○波多野幼児教育課長 実は、平成29年度末でも臨時職員は10名退職をされております。その際には、退職数と同程度の臨時職員の予算を計上いたしまして確保に努めさせていただきました。平成29年度は11月ごろまで随時応募をいただきまして不足するところを臨時職員で何とか補ってきましたが、平成30年度につきましては6月に最後臨時職員の面接をした後、この2月まで全く応募がないという状況でございます。12月に退職希望というのを各園から集めまして、最初に申し上げたように正規職員の追加募集等をいたしました。今後臨時職員の募集につきましては、努力を重ねていきたいところでございます。

○守井委員 47人が入れないというのは、困られる方が多いということなんで、何とかしてぜひとも100%入れるようなことを考えていかなきゃならないと思うんですよ。ぜひ取り組んでいただいて、岡山市内ではかなりの方が入園できないという新聞報道もあるんですが、せめて備前市では全員入園できるような形のものをつくらないといけないと思うんです。ぜひお願いしたいと思うんですが、方策をお聞かせ願いたいと思います。

○波多野幼児教育課長 方策といたしましては、先ほど申し上げたようにまず追加募集、それからその次の方策といたしましては、当初予算の審議にかかわりますので私どもが今計画していることでございますが、備前市内の病院内で保育をしてらっしゃる病院がございます。備前市内で認定された保育、いわゆる認可保育園ではございませんが、国、県から認定を受けてまして補助を受けている箇所が4病院ございます。そのうちの1病院は、企業主導型保育ということで国、県から援助を受けており、保育料は私どもと同じ無償にしておりますが、残り3病院、具体的に言いますと備前病院、吉永病院、それから草加病院でございますが、企業の主導型保育は受けておりませんが院内保育事業として県から認定を受けているところの備前市内の子供につきましては、その保育料を2万円を限度に援助する仕組み等を今考えており、当初予算に計上をしております。これは、院内保育でも県から受けている認可だけでは必ず保育料を1万円以上取らなくてはならないという要件の中受けてらっしゃいまして、今現在市内の方が2人いらっしゃいますが、4月1日になるとまた状況も変わってくると思います。そういった院内保育に入ってらっしゃる子供さんの保護者への援助をすることで待機児童の解消にもつながらないかということで、31年度新しい方策を立てます。

それから、きょうの午後、香登認定こども園に視察に来ていただきますが、現場で香登認定こども園の増築等のプランを皆さんに紹介したいと思います。これは、手狭さ解消というのが第一の目標で目的ではございますが、幾らかでも施設的に広げ待機児童の解消にもつながらないかということで検討してまいりたいと思います。

○守井委員 途中で職員が採用されることになった場合、この待機児童というのはすぐ解消されるんですか。例えば、吉永認定こども園に1人臨時職が来られるようになったら、この不足分は解消されて入園させるといようなことになるんですか。

○波多野幼児教育課長 一番最初の表に戻っていただきたいと思いますが、ゼロ歳につきましては、市内全体で申し上げますと3名に1人ですので6名不足しております。1歳児につきましては4名、2歳児につきましては2名不足しております。もちろん臨時で応募されている方の経験、それからゼロ歳から2歳でも見るのが十分できる能力、経験等を加味いたしまして、そのような方が1人でも2人でもフルタイムの臨時で来ていただければ、その分待機児童は解消される形になります。

○守井委員 市役所全体を上げて保育士さんに来てもらうように、しっかり広報していただきたいと思います。よろしくお願いします。

○橋本委員 先ほどのやりとりの中で、香登のこども園なんですけれども、当初の説明で施設上の問題で全員希望者を受けられないと、じゃあ、先ほど説明のあった施設の増築をした場合に保育士の充足率は十分なんですか。

○中西委員長 施設が増築できれば受け入れができるのか。つまり、保育士はもう十分香登のこども園は充足しているのかどうかという質問です。

○波多野幼児教育課長 受け入れることが可能です。

○橋本委員 わかりました。全体的な問題として、備前市は保育料を完全に無料化して、当然私も私もということで保育をしていただきたいという希望者がふえるのは予測できとったわけです。保育士も当時から足りない足りないと言っていたわけですから、当然かなり努力をされて保育士の確保をされておるんだろうとは思いますが、私は当時から人件費の問題、待遇の問題で備前市の場合はお隣の赤穂市や、あるいは岡山市と比較してもちょっと劣るところがあるんじゃないかと、だからなかなか定着しづらい、12名の臨時職の方が一気にやめられるということもあり、あるいはそのうちの3名が正職に回られたという説明だったですけど、私は臨時職の中でも正職になりたいと思ってる方は結構おられると思うんです。だから、そういう方面に道を開くとか、あるいは臨時職でも待遇面でももう少しよくしてあげるとかというようなことは幼児教育課としては考えられてないんでしょうか。

○波多野幼児教育課長 臨時職の中でも正職になりたい方への道ということでは、3年前から経験者枠というのを試験の中に加えまして、9月から10月にかけて、フルタイムで3年経験があり30歳から45歳までの年齢の方の募集をいたしました。市内でも臨時をされている方が応募

されるケースがございますので、そちらで道を開いております。

それから、臨時職の待遇の問題でございますが、今回、国の人勧によるものですが、16万8,000円から17万円台には乗りましたが、担任を持つものと担任を持たないものの手当てについて現在検討中でございます。

○橋本委員 国の政策で16万8,000円が17万円ですか、月額で2,000円ほどと。私は、じゃあ2,000円上がったから私もお勤めしようかというようなことはなかなかないんじゃないかなと。保育士とそれから介護の分野は待遇が悪いというのが世間一般的に広まっているわけですから、私はある程度思い切ったことをせんとなかなか応募してもらえないんじゃないかなと。以前からこれは問題にしとんですけれども、もう少し思い切った格好で待遇面を改善してあげる、備前市はすごいなというようなことにすべきじゃないかなと思うんです。何だったら財政のほうに我々も頑張って要求しますんで。そうしないと待機園児の解消はなかなか解決しないと思うんです。どんなでしょうか。

○波多野幼児教育課長 委員のおっしゃるとおりで、臨時職員の待遇改善というのは必須の政策ではないかと思えます。この件につきましては、市長を初め、執行部、財政当局のほうにも説明をさせていただきまして、今後の政策をともに考えてまいりたいと思えます。

○守井委員 やっぱり臨時職ばかりじゃなくて、正職をふやすような格好で、定期的にある程度人数が確保されるのであれば正職員を。将来的にずっと勤務していただけるかどうかの不安があつて数がなかなかふやせないのではないかと思うんだけど、退職といった予定がわかっているなら正職をふやしていくという形で4月なら4月に採用できるような形をつくるべきだと思うんで、そのあたりをぜひ検討していただきたいと思えます。何か考えがありましたらお願いします。

○波多野幼児教育課長 正職員もふやすということでございますが、保育士は全て備前市職員でございます。総務部総務課と協議して定数条例の改正が必要かと思えますので、問題点につきましては伝えておりますので、今後の検討課題とさせていただければと思えます。

○守井委員 部長はいかがですか、そのあたりは。庁議等でも話していかなくちゃいけないんじゃないかと思えますけど。

○川口教育部長 正職員の比率を高めるということになるろうかと思えますけれども、やはりそれにはどれだけの需要があるかという今後の見込みのもとで考えることが必要なかなというふうに考えています。現在、子ども・子育て支援計画という形で、その需要量については計画的に管理しておるわけなんですけれども、来年度以降もその辺の把握をした上で計画づくりが進んでいくというふうに承知しています。ですので、その見込みのもとでどのような教育体制を整えるのがよいのかということをしっかりと考えていきたいということです。

○守井委員 計画はいいんですけど、結果的にこういう不足が出るということは、その計画が見通しが甘いということになるわけですから、その辺をしっかりと。団塊の世代といいますか、以

前は保育士さんも多く入った時期があったと思うんで、その方々も退職していくんだろーと思えますから、そのあたりをよく見据えながらこういうことのないようにぜひしていただきたいと思います。人員管理も含めて、ぜひ検討していただきたいと思うんでよろしく願いいたします。

○川口教育部長 しっかりと見通しを立てて取り組んでまいります。

○西上委員 守井さんも言われましたけれども、一年前から妊娠されとる方の数もわかつとるわけでしょうか、なぜもっと早く手が打てれなかったのかということが知りたいんですけれども、どうでしょうか。

○波多野幼児教育課長 私どものほうでは、1年前から妊娠云々につきましては把握できないところではございます。職員の産休については把握できますので、その際に臨時パートさんで補っていくということについては、そういった届け出が出た場合に対処していくつもりでございます。

○星野委員 ゼロ歳児からの無償化っていうのは、たしか29年度からスタートしたと思うんです。本年度末の正規職員の退職状況は、先ほどお聞きした限りでは29年度末と同じような状況だったということですが、年度当初での待機児童というのは備前市ではこれまでなかったと思うんです。中途では何件かあったように聞いてますが、職員の退職状況が同じような状況であってこの年度当初では待機児童が発生することになった要因はちゃんとつかまれているんですか。

○波多野幼児教育課長 年度当初の待機児童は確かに昨年まで発生しておりません。年度中途の待機児童は20人前後、秋から冬にかけてゼロ歳児が6カ月になり、すぐ預けたいというような要望、あるいは育児休暇復帰等で11月、12月から入りたいというような方で待ってらっしゃる方はいらっしゃいます。

把握につきましては、29年度、30年度とゼロ歳児の増加というのが見受けられ、それに対する私どもも保育士の充足というのは課題でございましたが、一つの園にゼロ歳児が20以上殺到するというにつきましては予測がついておりませんでした。この方々をほかの園に1人、2人回っていただくにつきましても3人に1人はいるものですから、3人のところが1人ふえることにより、また保育士が1人追加しなければいけないということで、一つの園にこれだけ殺到するというのが予測できなかったことでございます。

○青山副委員長 保育士の数が不足するというのは理解できるんですが、例えば自宅で子育てをしている、そういったところへの補助というのはどうなっているのでしょうか。

○眞野子育て支援課長 自宅で子育てをされている方への補助金というのは、今のところ特には出ておりません。

○青山副委員長 ゼロ歳から2歳というふうな年齢というのは、家庭で母親あるいは家族と触れ合って愛情を育てて育てることが望ましいんじゃないかなと思うんですが、そういうふうなことを考えて家庭でというふうなことをされているようなところにも、何かそれを奨励するというのはおかしいかもしれませんが、援助するようなことも考えていただきたいなというふうに思うんで

すが、いかがでしょうか。

○眞野子育て支援課長 今は1人1カ月1万5,000円の児童手当が、小さい子には出るようにはなっております。そんな制度もございますし、地域子育て拠点といいまして家庭でお子さんを見ている子供さんと親御さんが気軽に集えるような拠点が備前市には5カ所も設置させていただいております。そのようなところにも市から委託料を出して設置しておりますので、御利用いただけたらと思いますし、あと家庭でその子供さんを見るか見ないかっていうのはまた世帯の親御さんの考え方もございますし、お勤めになっている企業の制度とか考え方とかも影響してくると思いますので、そのあたりのことも総合的に考えて今後も検討していきたいと思います。

○青山副委員長 研究していただけたらと思います。

もう一つ、再募集をされるということなんですけど、第1希望しか書いてないと言われるところは、例えば上に既に子供さんが入園されてて、下の子供もぜひそこへ入れたい、そうすることによって送り迎えが不便にならないといったことで希望されてる方もおられるんじゃないかと思うんですけど、そういう調査というのは最初の募集要項なり、出てくるようなことになってるんでしょうか。

○波多野幼児教育課長 今在園児につきましては当然、私どもも申し込みが出た時点で把握のほうはしております。委員おっしゃられるように既に2歳、3歳のお子さんが上でいらっちゃって、下が入れないというようなことも発生しております。特に香登につきましては、ゼロ歳児を保育する部屋がもともとございませんので、ゼロ歳児は近くの大内保育園で上のお子さんが香登のこども園に入ってらっしゃる、そして1歳になったので下のお子さんも香登を希望されるといった例のほうもございます。

○青山副委員長 そういうふうな人、家庭は優先順位が高くなるんですか。上に子供がいてそこを希望したいというふうなことは優先順位の中に入るんでしょうか。

○波多野幼児教育課長 本日お配りいたしました3枚目の表の右側でございますけども、優先利用の区分の点数というところで、区分の大きいところの一番上が福祉的、その次が養育環境的配慮の中にFの項目で兄弟姉妹、兄弟姉妹が同一の施設の利用を希望する場合ということで、2点加点のほうをする配慮をしております。

○星野委員 伊部こども園にかなり待機児童が出てるんですが、これは移住者等がふえて人口が増加したことによる単純な増加なのか、それとも別の要因があるのでしょうか。

もう一点、2号、3号認定について、2歳児では現在116人園児がいるんですが、来年度は151人、これはどういう要因でふえてるかっていうのは分析されてるんでしょうか。

○波多野幼児教育課長 伊部の希望につきましては、市内に住所を有している方がほとんどでございます。それが、移住かどうかということにつきましては、まだ私どものほうでそこまでの把握はできておりません。これは、住民票と住所地で判断していきますので、今後中身の分析をしたいと思います。

それから次に、2歳児の今116人に対して151人も応募してきている要因でございますが、求職中の方の点数が低く待機になっているということにも鑑みると、1年あるいは2年育休等をとられた方や、1歳のときに年の途中で応募しても入れない、じゃあ今度は4月1日という方で、育休の方の復帰要望が主な原因と分析しております。

○森本委員 今まで臨職でやめられた方を再度またお願いしていくとか、そういうことはされていきますか。

○波多野幼児教育課長 正職員については2年を限度といたしまして再雇用の制度がございます。定年退職の方につきましては私どものほうで希望を聞いた上、希望があれば再雇用しております。臨時職員につきましては、主に園長が面談をするわけでございますが、ことしの臨時職員の中にも3年前までお勤めされていた、また私立の園長経験者等も含まれており、その方が私どもの希望と本人の希望にかなえば随時採用していく所存でございます。

○森本委員 先ほどの説明で、正職でもやめられた方で結婚とか介護とかあるんですけど、臨職の方で前も一度お話ししたんですけど、やはり職場での正職との関係性でやめられた方がいることも多数聞いています。給与の改善ももちろん必要だと思うんですよ、でも職場での改善もどうにかしていかないことには臨職の方が続けて勤めていこうという気持ちにはなかなかないのが現状じゃないかなというふうに私は思っています。正職の方との関係性を教育委員会が介入できるのであればいただいて、何とかできるところは改善していくというふうに取り組んでもらえたらと思うんです。介護職でもそうなんです。やっぱり臨時とパートと正職の間で摩擦が起こるのはどこの社会でもあることなので、一概に保育士だけがあるとは言えないんですけども、その中で皆さんプライドを持たれて仕事をされてる方が多分ほとんどだと思うので、その中で若い正職の方に臨職の高齢の方がいろんなことを言われた場合に摩擦が起こるってのはこれはもう必然的なことなので、そういうことは早い話が教育の段階からしていくべきなんでしょうけれども、一言何かあれば雰囲気も変わってくるかと思うんです。園長先生がそこら辺をうまくコントロールされていたら問題はないかと思うんですけれども、なかなかどちら側の立場に立つかということによって園内の雰囲気も変わってくると思うので、難しい話だと思うんですけれども、どこの世界でもパワハラはあったりする場合もあるので、そこら辺も考えていただいて、男性の保育士さんもおられることですし、いろんな現場で介護士の現場でも男性職員はやりづらいいということもありますから、その場その場で対応できるように取り組んでいただけたら、また臨職さんも復帰していこうというふう考えられるのかなと思っていますが、どうでしょうか。

○波多野幼児教育課長 市役所が行っております目標管理や人事評価、あるいは来年度の配置等につきましては、園長先生と私ども幼児教育課で随時面談を行っております。その中でも特に園内の問題に関して私どもが実際に園に行き指導をするというのも今年度ございましたので、そういった聞き取り、あるいは幼児教育課に気軽に相談できるような雰囲気づくりは今後とも行っていきたいと思っております。それから、パートさんの不満等につきましては、待機児童の解消

のために8時間に満たないパートの方に担任をお願いしてやってもらっていたというような例も今までございました。それが、臨時職員同士の待遇の差や不満にもつながっているのではないかとということで、今後そういったことを一切廃止いたしまして正職員と臨時職員もフルタイムの方のみ担任に配置するといったような策のほうを講じていきたいと思っております。

○森本委員 決して想像とかじゃなくて、実際そういう理由でやめたんだっていうことを言われた方もいらっしゃるの、質問させていただいているわけなので、またしっかり取り組んでいただいて、やはり私はそれが一番だと思うんです、正直。パートをされる方はパートの時間帯があるから、パートでいい、臨時職でいいという方もおられるので、そこら辺の聞き取りをしっかりとさせていただいて配置を考えていただきたいと思います。

○守井委員 病児保育の件で、今吉永病院で工事中だというお話があったんですが、時期をはっきり言われなかったんですけども、いつから開園予定に動いてるんか、それから工事をやる関係で何がおくれているのか。するんだったら早目にしなくちゃならないんじゃないかと思うんですけど、予算のほうの動きがないんか、それともほかの理由があるのか、それから実施予定がいつか、それを教えていただけますか。閉鎖しているのであれば、できるだけ早く開園しなくちゃならないんじゃないかと思うんですけど、何か緊迫感がないような気がするんです。よその病院行ってください、よそのほうに行ってくださいというような言い方は何か失礼じゃないかなと思うんですけど、いかがですか。

○金井病院総括事務長（備前病院） 病院の予算では、30年度の事業として既にとっております。ただ、これは施設の入札におきまして不調が3回ほど続きまして工事がおくれてしまったと。当初では秋口からでも受け入れ可能というような形での目標を持っておりましたが、やむを得ず現在に至っておるということでございます。

事業につきましては、29年度に執行部から打診を受けまして病児・病後児保育について備前病院、吉永病院の院内保育所でできないか、協力していただけないかということで進めておりましたが、備前病院につきましては医師がいなかったということ、吉永病院につきましてはやっとな協力できるということで30年度実施ということでいきましたが、そういう事情でおくれています。申しわけございません。

○守井委員 3回も入札不調ということは、恐らく設計書に何らかのできない理由があるということで不調になっただろうと思うんです。1回不調があったら2回目からきちんと精査できるような形で。それじゃ業者もまだ決まってないというような状況でしょうか。

○万波吉永病院事務長 12月に落札されまして、現在工事中でございます。3月の末までには完成をしたいと考えております。あとは、それに備えて人員の配置が必要になってくるわけですけども、いろいろな配置の方法があるということで担当課と病院とで視察にも行っております。はっきりしたことは申し上げられませんが、4月が目標だったんですが、5月あるいは6月ということで早目に開園を目指したいと考えております。

○守井委員 できるだけ早く、4月なら4月にできるようにお願いしたいと思います。

○万波吉永病院事務長 頑張ります。

○中西委員長 よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、これで報告事項を終わります。

暫時休憩いたします。

午前10時48分 休憩

午前11時02分 再開

○中西委員長 休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

次に調査研究事項に移ります。

***** 委員派遣について *****

まず初めに、本日は教育行政についての調査研究ということで、香登認定こども園の視察を関係部署と調整しておりますが、委員の派遣についてをお諮りいたします。

本日の委員会閉会后、委員全員を香登認定こども園に派遣することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認めます。それでは、そのように決定し、直ちに委員派遣を要求します。

なお、視察は議会公用車で行うことといたします。

***** 子育て支援についての調査研究 *****

次に子育て支援についての調査研究ということで、子ども医療費助成について御説明を願います。

○眞野子育て支援課長 子ども医療につきましては、平成30年4月の機構改革により所管課が保健課から子育て支援課のほうに移っておりますことを最初に申し述べます。

子ども医療費の実績の推移をA4の横版の資料にまとめておりますので、ごらんください。

平成29年1月から高校生を対象といたしましたので、平成28年度の高校生分176万7,225円につきましては、1月診療分と償還給付の分のみとなっております。受給者数につきましては、子供の人数は減少傾向にあります。年によって多かったり少なかったりという変動がございますが、就学前でしたら1,200人、小学生は1,350人ぐらい、それから中学生が大体850人ぐらいでいったんですが平成30年が754人とちょっと極端に少ないのは少ない学年がありましてこういうことになっております。それから、高校生は大体950人前後ということになっております。

医療費給付につきましては、年々増加の傾向にございまして、平成30年度の予算額は1億2,417万1,000円でございしましたが、今後不足する見込みが生まれて、この2月補正で300万円の追加を計上させていただく予定でございます。よろしくお願いたします。

制度の経緯につきましては、表の右下にございますように平成29年1月から高校生まで拡大

して給付しております。それに対しまして県の補助金は、対象が非常に限定されておまして、表の左下でございますが、3歳未満で給付額の10分の4、それから3歳から就学前までで4分の1、小学生につきましては入院の給付のみとなっております。それも3分の1しか出ません。今後も補助金が拡大されるように市長会等を通じて今働きかけているところでございますが、なかなか難しい状況でございます。

もう一枚の資料のA4縦版でございますが、これは岡山県内の各市町村における小児医療費公費負担制度の状況を示したものでございます。平成30年4月1日現在で、一番新しいものでございます。備前市と同様に高校生までとしている市町村は、市では高梁市、赤磐市、それから近隣の和気町などございますけれども、赤磐市は高校生は1割負担となっておりますので全額負担ではございません。また、今中3までとなっております井原市、新見市でも18歳までに拡充することを検討中と聞いております。

○中西委員長 委員の皆さんのほうから何か御質問ありますか。

○守井委員 子ども医療費ですから、医療にかかった人に対しての対象だろうというふうに思うんですけども、基本的に元気な方、全く病気をしない、けがをしないという人もおられるんじゃないかなと思うんです。ここへ人数が出ておりますけれども、この助成を受けていない方もおられるんじゃないかと思うんですけど、その辺の実態はいかがなんでしょうか。

○眞野子育て支援課長 一応住基と照らし合わせて、そんなに差はないんですが、あったとしても20人か30人ぐらいかなと思っております。これは、受給者証を出している方になりますので、証を出しているけれども使っていない方ももちろんいらっしゃいます。

○守井委員 使っていない方が全体で20人ぐらいということ。

○眞野子育て支援課長 住基の数と比べましたら証も出していない方も何人かはいらっしゃいます。

○守井委員 先ほどの20人というのは、使われなかった方が全体で20人ということですか。

○眞野子育て支援課長 例えばですが、住基の数だったら、平成30年の高校生で言うと該当する人が930人としたら証を出しているのが910人といったような、それぐらいの差だということなんです。

○守井委員 基本的に国保なり、社保に2割負担とか1割負担とか3割負担とかいろいろあって、子供たちにもあるかと思うんですけど、それに対しての基本的な補助ということで理解していいんですよね、全額補助という形でいいんですよね。

○眞野子育て支援課長 その自己負担分に関する全額補助でございます。

○星野委員 先ほど受給者証を出していない方が20人おられるということなんですが、出していない理由って何なんですか。これは全園児、児童・生徒が対象ですよ。

○眞野子育て支援課長 これは一応申請主義になっております。例えば、生活保護の方とかはもちろんないですし、それから何らかの事情で申請されない方もいらっしゃるのかなと思います。

○山本保健福祉部長 補足説明させていただきますが、仮に証が出てなくても何らかの事情で高額な医療費が発生して負担したような場合は領収証等の添付をしていただき、窓口に申請していただければもちろん償還給付扱いということでお返しするという事は可能ということになります。

○守井委員 今、国のほうもいろんな形で子育て支援策を考えているということで、幼・保の無料化も今度制度化していくという形になってるんですけども、県の補助金はこういう形になってるんですけど、国の補助の動向はどういう形になってるのでしょうか。将来的に子ども医療費にも補助をするような方向に行くんじゃないかなと思っておるんですけども、いかがなんでしょうか、。

○山本保健福祉部長 先ほど課長が言いましたように、国に対しても制度的なものを設けてほしいというような要望等をさせていただいておりますけれども、今のところ新たな動きはないようでございます。

○中西委員長 よろしいですか。

○守井委員 はい。

○中西委員長 ないようでしたら、調査研究を終わりますけどもよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、この子育て支援についての調査研究、こども医療費助成についてを終わります。

***** 教育行政についての調査研究 *****

次に教育行政の調査研究ということですが、資料等の配付も含め詳細については現地にて御説明いただきたいと思います。先ほどの、保育士が足りればこの改築によって子供を全部受け入れることができるというような説明もありましたから、よろしくお願ひしたいと思います。

以上で、本日の厚生文教委員会を終了します。

皆さん、御苦労さまでした。

午前11時12分 閉会